

【上北山村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICT環境による学びの姿は、個々の児童・生徒が1人1台の端末を使用し、個別に最適化された学習体験を享受することを目指す。これにより、児童・生徒は自分のペースで学習を進め、興味や能力に合わせたカスタマイズされた教材にアクセスできる。また、ICTを活用した対話的な学習アプリケーションやオンラインツール(e-netならを中核として)を通じて、児童・生徒同士や教師と児童・生徒の間での交流や協働が促進される。ICT環境は、従来の教育手法に比べてより柔軟で効果的な学びを可能にし、児童・生徒の主体性を引き出す革新的な教育の実現を支援する。

2. GIGA第1期の総括

2020年3月末、既存の情報機器を活用して、今できることを模索し学習支援を始めた。当時はGoogleバングアウトやSkype等のTV会議システムを活用した、①事案による休校中の安否確認及び情報収集(健康観察等々)②児童生徒の心身の安定に努める③休校中における学習保障(オンライン学習)、以上のことを柱に手探りで進め、児童・生徒の心身の安定と基礎学習を進めることができた。同年5月下旬より半日登校をはじめ、6月にはGIGA第1段としてのClassroomの活用が可能となり、Meetを活用した他校との遠隔オンライン授業等々の実施を進め、早期からICT活用を行っていたことから教師及び児童生徒のスムーズな活用ができた。また、Classroomを活用した意見交換や学習発表の舞台としても利活用をしている。現在、デジタル教科書を活用した学習や、思考力やプレゼン力の習得に有効なロイロノートの活用など全教科において日々の学習においては無くてはならないツールとなっている。課題としては、ハード面のネットワークスピードにおいて、少人数であることからそれほど不具合は感じなかったが、デジタル教科書を中心として様々動画コンテンツ活用時に必要なギガスピード回線整備及び高速Wi-Fi環境構築が急務と感じる。また、AIを活用したアダプティブ・ラーニング(適応学習)への利活用における研修に努める。

3. 1人1台端末の利活用方策

個別学習を重視し、児童生徒が自分のペースで学習できる対話的な学習アプリケーションやオンラインコラボレーションツールを導入し、児童生徒同士や教師との間で情報交換や協働を促進する。また、適切なデジタル教材やオンラインリソースを活用して、学習内容を豊かにし、興味を引き出す工夫をする。さらに、児童生徒の学習の進捗状況や理解度をリアルタイムで把握し、個別にアドバイスやフィードバックを提供する仕組みを構築する。ICTを利活用することで、児童生徒の能力やニーズに合わせた学習環境を提供し、より深い学びを促進する。